

【レポート②】 地区別研究会報告(1)

めだかの学校(地域福祉に関する勉強会)

川西 剛(社会福祉法人サンシャイン会)

サンシャイン会では月に一度、『めだかの学校』という名称で地域福祉の勉強会に取り組んでいます。めだかの学校は地域福祉に興味がある人が月に一度集まり、地域という広い視野でどういう取り組みをすべきか考えていく活動で、立場や肩書きに関係なく、対等な立場で議論することで、地域福祉のあり方や取り組みを考えることを趣旨として始められました。

めだかの学校は平成19年10月10日開校し今年で6年目になり12月に開催した会で74回を迎え、今までさまざまな活動を行ってきました。

平成19年度は、さまざまな事例についてグループワークを行い地域福祉とは何かということについて理解を深めました。

平成20年度は、地域の社会資源を知ることにより知識の向上を図るということをテーマに社会福祉協議会、病院の理学療法士、施設職員、施設長などの方々に講師になっていただき、さまざまな分野の福祉についての講話を行っていただきました。

平成21年度は、前年度に引き続き、さまざまな分野の方に講師になっていただき具体的に行われている地域での福祉活動や行政側の取り組みについて講話していただきました。

平成22年度は地域包括ケアの資料の読み合わせと「アサーティブ」についての本の読み合わせを行いました。「アサーティブコミュニケーション」とは、相手を尊重した上で自分の意見や気持ちをその場に適切な言い方で表現することで、それをさまざまな人と接する際に役立てられないかと考え「アサーティブ」についての勉強会を行いました。

平成23年度は、前年度に行った「アサーティブコミュニケーション」についての本の読み合わせを行い、その都度「アサーティブ」のテーマについてメンバーの意見交換を行いました。

平成24年度は地域の民生委員の方に来ていただき、講話を行ってもらい地域の福祉課題等について理解を深め、民生委員活動の理解の為の勉強会を行いました。7月末には実際に地域サロンに参加させてもらいどのような活動をされているのかを体験させていただきました。その体験を通して世話人の方々が内容の企画をされサロンが行われている現状を知ることが出来、特別な企画ではなく、地域が集まって互いに交流の時間を過ごすだけで有意義な時間になり得ることを学びました。

そして今年度は施設の一室で行う勉強会ではなく、前年度とは違う地域サロンの活動を見学した後、後日、カレンダー作りのレクリエーションと体操(介護予防)のイベントをそのサロン活動で行わせていただいた結果大変好評でした。その他にサンシャインの近くにある浜辺や周辺地区の清掃活動や一人暮らし高齢者を対象とした料理教室を開催し、こちらも良い評価をいただくことができました。今度は在宅介護者向けの介護教室を開催し、レクリエーション、筋力トレーニング、介護等に関する在宅介護者の悩みや相談を聞く場として等、さまざまな視点から地域住民のニーズに合わせた活動に取り組み、社会福祉法人としての地域貢献の實踐をしたいと考えています。

中讃地区ソーシャルワーク研究会

小島正平(かがわりハビリテーションセンター)

中讃地区勉強会です

中讃地区勉強会は、2010年2月に高松地区勉強会を引き継ぐ形で「善通寺希望の家」と「かがわ総合リハビリテーションセンター」を拠点としてスタートしました。それから、不定期ながら様々なテーマについてとりあげ勉強会を重ねてきました。

これまでにとりあげたテーマは、「私の施設(事業所)の現状と課題について」、「私のストレス解消法」、「誰か教えて！私の行き詰まり感を…」、「権利擁護・成年後見支援センターの現状と役割、今後の展開(講師 香川県社会福祉協議会 十河 真子氏)」、「障害者虐待について(障害者防止法をもとに)講師 善通寺希望の家 田中 慎治氏」等で、参加者のやりたい勉強会をその都度とりあげて進めていくという形をとってきました。

また、その中でのビッグイベントとして、川西会長に大変お世話いただき小豆島までサンシャイ会の各施設の視察と小豆島紅葉観光を行うということもできました。

当勉強会は、定期開催とせず、参加したい方がなるべく参加できるよう日程を調整し開催日を決めていただき、それぞれが忙しい中でなかなか回数の確保ができなかったことが課題となっており、少し実施方法の見直しを検討しています。また、希望の家やリハビリセンターからの参加者以外の幅広いところからの会員等の参加が求められます。

そうしたことを改善しつつ、当勉強会についてホームページで紹介していきますので、会員の皆様のご参加をお待ちしています。当勉強会はとてもアットホームな会ですので、お気軽にご参加ください。

西讃地区ソーシャルワーク研究会

丸畑 望(社会福祉法人正友会)

西讃地区ソーシャルワーク研究会は丸亀市ひまわりセンターを会場に、毎月メンバーが集まり、自主的な勉強会を続けています。

定例会では昨年度「ソーシャルーカーという生き方」(中央法規出版)をテキストに、様々な経緯でソーシャルワーカーとなり、紆余曲折を経ながらキャリアを重ねておられる方々にスポットをあて、輪読や自由討議を通して自分たちの姿を振り返ることを学びとしてきました。

今年度は勉強会に参加しているメンバーが、自分自身の体験を通じて影響を受けた人との関わりを紹介し合い、引き続きソーシャルワーカーとしての在り方を考え、学び合うことを研修としています。

その中で、今回メンバーの一人が賀川豊彦氏の働きを紹介してくれたことをきっかけに、香川県ソーシャルワーカー協会の理事である尾崎俊二氏をお招きして、賀川氏が豊島神愛館の働きに携わられたことや、尾崎氏が元神愛館館長の兵藤みや子氏にされたインタビュー(詳細は「香川ソーシャルワーク第21号」にレポートとして掲載)について、貴重なお話を伺うことができました。

そして、香川をはじめとする日本の先人達が時代の要請から社会事業を興し、情熱を傾けて先駆的な取り組みをされたことを知りました。また、その先人達に影響を受けられた多くの方々が更なる志を持ってその意思を受け継がれていることを伺い、今日その一端を担っているソーシャルワーカーとしての自分たちの在り方

も省みることができました。

現代の社会福祉は制度も充実し整えられた環境での事業運営が中心となっています。ソーシャルワーカーも一組織に所属する一員としてその責任を担い、役割の中で専門性を発揮されていると思います。しかし、少し視野を広げて自分が活動している地域や近隣には、同じような志を持ったソーシャルワーカーが試行錯誤を重ねながら、研鑽を積んでいるのだと思います。

西讃地区ソーシャルワーク研究会は、多くの仲間たちが出会うきっかけとなる勉強会にしていきたいと考えています。

～文献や体験談を通じて参加者一人一人が感じたことを、言葉にして相手に伝えることにより、言葉を発した本人自身が自分の考えや思いを自覚する～

これからもそのことを通じて日頃の仕事を振り返り、ソーシャルワーカーとしての経験を積み重ねていく機会の一つでありたいと考えています。毎月集まるメンバーは多くはないですが、一人でもその場に必要を感じて集ってくれる方がいる限り、今後も勉強会を継続していきます。